

中野社長が記念講演

中野科学が精密工学会北陸信越支部技術賞

公益社団法人精密工学会 北陸信越支部(支部長・山田泰弘福井大学芸術研究院教授)は、きのう十二日午前九時から新潟大学で、今年度の学術講演会を開催した。



中野社長(左)と山田支部長(右)

平成十九年から開催されている学術講演会で、北陸信越支部に多くの研究機関や企業がある精密工学分野

の交流と技術向上を目指し、毎年行われており、ことしは昨年を引き続き、学生と企業の交流の場となるランチョンセミナーを開催するなど盛大に行われた。

午後一時十分からの同支部総会では、毎年、地域で優れた業績を上げた技術者や企業を表彰する支部技術賞の表彰式が行われ、今年度は長岡市平島一、柳サンシンの二タイプ研磨によるボールねじの面精度向上技術が受賞したほか、県央地域から燕市小池の表面処理メーカー、株中野科学が「高精度で高品質な電解砥

粒研磨の実用化」のテーマで受賞。それぞれ山田支部長から表彰状などを受け取った。

そのあと、受賞記念講演が行われ、中野科学からは経営者であると同時に研究者として今回の論文を執筆した中野信男社長が登壇し、プロジェクトを使って、十五分ほどで、今回の論文の要旨を語った。

「圧力が重要になります。圧力が強いと物理研磨のようになってしまい、またポイントを端的に語り、そのメカニズムについて一般的に金属の表面は酸化しています。酸化している部分とそうでない部分とは電気抵抗が違」として、研磨中は常に表面を酸化させながら研磨させていく仕組みを紹介。

昨今は電圧の測定技術が進み、それまで加工が難しく途中で酸化しやすかった純チタンなどの素材にも対応できるようになったことなどを紹介。具体的な活用事例として、茨城県東海村の大強度陽子加速器施設、質疑応答では今回の実行委員長でもある新潟大学工学部の新田勇教授が、メカ

「二スラムが複雑な電解砥粒研磨について、金属表面の酸化膜を薄皮に例えて、薄皮をはいで、そこに新しくできた薄皮をはいでいく」という感覚でいいのでしょうか」と質問。同社の技術に興味を示していた。

このほか、午後二時三十分からは、平成十七年にフリーヒェン型スタリング冷凍機の開発・量産化で受賞している燕市吉田西太田、ツインバード工業㈱の宮井剛執行役員が「宇宙用冷凍庫フリーヒェン」を語り、「今後にもさらに役に立ってよううに研究を進めていきたい」と語った。

「二スラムが複雑な電解砥粒研磨について、金属表面の酸化膜を薄皮に例えて、薄皮をはいで、そこに新しくできた薄皮をはいでいく」という感覚でいいのでしょうか」と質問。同社の技術に興味を示していた。

このほか、午後二時三十分からは、平成十七年にフリーヒェン型スタリング冷凍機の開発・量産化で受賞している燕市吉田西太田、ツインバード工業㈱の宮井剛執行役員が「宇宙用冷凍庫フリーヒェン」を語り、「今後にもさらに役に立ってよううに研究を進めていきたい」と語った。

「二スラムが複雑な電解砥粒研磨について、金属表面の酸化膜を薄皮に例えて、薄皮をはいで、そこに新しくできた薄皮をはいでいく」という感覚でいいのでしょうか」と質問。同社の技術に興味を示していた。



(細山)